



宮城県中学校長会

会 報

平成29年度 宮城県中学校長会 第68回総会開催される



あいさつ

宮城県中学校長会
会 長

桂 島 晃

総 会 概 略

6月6日、新会員27名を含め総勢135名が一堂に会し、第68回宮城県中学校長会総会・研修会がホテル白萩を会場として開催されました。桂島 晃会長の挨拶に続き、宮城県教育委員会教育長高橋 仁様からご祝辞をいただきました。

今回退職された22名を代表して前会長の星豪様へ感謝状と記念品を贈呈後、代表挨拶として、全日本中学校長会研究協議会宮城大会が盛会裏に終えられたことへの感謝の言葉と「賢い者、強い者ではなく変化できる者が生き残れる。」という示唆に富む言葉を頂戴しました。

新会員紹介、全日中校長会員証（バッジ）の贈呈の後、階上中学校菅原定志校長が「知恵と勇氣と笑顔で職務の遂行に当たります。」と決意を表明されました。

続いて、前年度と今年度の事業及び会計、宣言文について承認され、全員で宣言・決議文を力強く読み上げました。青田 穰副会長の挨拶で「ネットワークと情報共有」の大切さを確認し、午前の部は終了となりました。午後は、研修会として、教育庁各課・室から教育行政について説明・質疑が行われた後、大石正利副会長の閉会の挨拶で、「校長が先頭に立ち実践して見せることの大切さ」を確認し、閉会となりました。

今年度、理事会で会長に選出されました塩竈市立第一中学校の桂島晃でございます。どうぞよろしくお願いたします。本日は、二十四節気では「芒種」に当たり、麦などの穀物の種を蒔く時期であります。まさに今年度の宮城県校長会がスタートを切るにふさわしい日であるように思います。

本日は、公務ご多用の中、宮城県教育委員会教育長高橋 仁様はじめ、多くのご来賓の皆様、関係機関の方々、歴代校長会長の皆様にご臨席を賜り、平成29年度第68回宮城県中学校長会総会を開催できますこと、会員一同、心より感謝を申し上げますとともに、大きな喜びとするところでございます。

この3月をもちましてご勇退なされました、22名の校長先生方におかれましては、長年にわたり宮城県の教育振興にご尽力をいただきました。これまでの本会へのご理解とご協力に対し、深く感謝を申し上げます。更なるご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも校長会に対する温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

この度、本会に、中学校長としてご昇任なされた21名の新会員をお迎えすることができました。新任の校長先生方におかれましては、学校のリーダーとして、学校教育への熱い思いを教職員にしっかりと伝え、魅力ある学校づくりに存分に力を発

揮してください。校長は、学校を経営するに当たり、様々な場面で決断を迫られます。その時に最も必要なのは良質な情報であります。どうか独善的にならないよう、校長会のネットワークを生かし、より良い情報を得て適切な判断をしてほしいと思います。

本会は県内各地の中学校長会の連絡提携を図り、中学校教育の全領域にわたる当面する課題の検討や研究協議、関係機関への提言や情報発信を行い、本県教育の振興に寄与することを目的としております。校長としての資質向上に努め、共に成長してまいりましょう。



さて、ご承知の通り昨年10月に、全国各地から約2,200名の校長先生方をお迎えし、本県で全日本中学校長会研究協議会を開催しました。大会コンセプトは“「復興」から「新生」へ～感謝の心と確かな絆を忘れない～”として、東日本大震災時に寄せられた全国からの支援に対する感謝と確かな絆を実感して着実に前進することができたことへの御礼の気持ちを込めて、確かな復興への道を歩んでいる宮城の姿を伝えたく、県内の中学校長が一丸となって取り組んだ大会でした。大会終了後、全国各地から「閉会式での子どもたちのタイヤ和太鼓演奏や合唱に感動し、自然と涙があふれた。」「先生方の並々ならぬ努力によって、宮城県の復興が着実に進んでいることを感じた。」「宮城県と仙台市校長会の連携が図られ、おもてなしの心に満ちた素晴らしい大会であった。」等、高い評価を得ることができました。成功裡に終え

たことを報告し、ご協力いただいた皆様に、改めて感謝を申し上げます。

全日本中学校長会は「学校からの教育改革」を目指しております。未来社会を担う人材である子供たちに生き抜く力を育成するために、校長として明確なビジョンを持ち、リーダーシップを発揮して、積極的に教育改革に取り組んでいかなければなりません。教育改革が進む中で、中学校教育の実態を踏まえた成果と課題を的確に把握し、各校で改善を進めるとともに、関係機関等に意見表明していくことは全日中の使命であり、その役割は、本県中学校長会も同様であります。

校長は行政の末端であり、国や県及び市町村教育委員会が示す様々な施策について、正しい情報を収集し、見通しを持って自校の学校経営に積極的に取り入れることが大切であると考えます。教育改革を実効性のあるものにするかしないかは、校長の手に委ねられているといっても過言ではありません。未来ある中学生のために、地域や保護者、生徒の実態を踏まえた実践を積み重ね「学校からの教育改革」を進めなければならないと考えています。

今年3月に、新学習指導要領が文部科学省告示として公示されました。今回の改訂では、社会が加速度を増して変化していく中で、これから学んでいく子供たちが大人になる2030年頃の社会の在り方を見据えながら、どのように知・徳・体にわたる生きる力を育むのかを重要視しています。特に、「主体的・対話的で深い学び」、「社会に開かれた教育課程」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の推進が求められています。

「主体的・対話的で深い学び」については、一方的に知識を得るだけでなく、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を進め、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指しています。論語に「学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。」という言葉があります。「学んでその考えを自分の考えに落とさなければ身に

付くことはない。また、自分で考えただけで人から学ぼうとしなければ、考えが凝り固まって危険だ」という意味です。古くから深い学びの大切さが示されております。生きて働く力、「生きる力」を育むためには、深い学びが必要であると考えております。

「社会に開かれた教育課程」の実現については、地域の人的・物的資源を活用したり、社会教育と連携したりし、学校教育を学校内に閉じずに、教育目標を社会と共有・連携しながら実現させることを目指しています。学校は、地域の特性を生かした特色ある教育を推進していかなければなりません。地域の方々の願いを理解してこそ、地域に根ざした特色ある教育ができると考えております。地域の方々は、学校の長い歴史を理解し、学校を「線」として捉えています。教職員はどうかというと、在職期間が限られており、学校の長い歴史から考えると、学校を「点」としか捉えていないように思います。学校を「線」として捉えている地域の方々の思いを学校運営に反映させることはとても大切なことであると考えております。

「カリキュラム・マネジメント」については、「教科横断的な学習」及び「主体的・対話的で深い学び」を充実させるために、学校全体として、教育内容や時間の適切な配分等を見直し、学習効果を最大化することを目指しています。人的・物的体制を確保することも必要なことから、県教育委員会や市町村教育委員会等、行政当局との連携も必要になってくるものと考えております。

新しいことに取り組む時には、情報収集と認識の共有が必要であります。これまで以上に校長会のネットワークを強固なものにし、情報交換の機会を設け、認識を共有し、一步一步着実に推進してまいりたいと思います。大きな改革ではありませんが、今回の改訂の趣旨を踏まえ、それぞれの学校現場で、円滑に且つ適切に教育活動が実施されるよう私たち校長は学校の最高責任者として、自らの明確な改革ビジョンと教育改善に向けた強い意志を持ち、家庭や地域と一体となりながら、「学

校教育の推進」「教育諸条件の向上」等に努めなければなりません。



また、昨今、学力向上をはじめ、いじめ問題や不登校対策、防災教育の推進、更には様々な危機管理等、喫緊の教育課題が山積しております。生徒や保護者、地域の方々から信頼される学校であり続けるため、校長を中心に教職員が一丸となった学校運営ができるように条件整備にも努めてまいりたいと考えております。今年一年、地区校長会、理事会を通して意見を集約し、校長会としての方針を定め、教育課題の解決と宮城県の教育充実のために、全力で取り組んでまいりたいと思います。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

私の好きな言葉に「一隅を照らす（一燈照隅）」という言葉があります。「与えられた場所をしっかりと照らす。」「その仕事をする上で、なくてはならない存在になる。」という意味です。校長一人一人が一隅を照らせば、やがてそれが集まり大きな燈となり、宮城の子供たちの未来を明るく照らすことになると考えております。

結びになりますが、宮城県教育委員会及び市町村教育委員会のご指導をいただきながら、会員相互が研鑽を深めつつ、学校の最高責任者として学校運営に邁進し、宮城の教育の一層の充実発展に貢献することを誓いまして、開会の挨拶といたします。



祝 辞

宮城県教育委員会
教育長

高 橋 仁 様

皆さんおはようございます。県教育委員会の高橋でございます。総会の開会に当たりまして、一言お祝いを述べさせていただきます。

平成29年度の総会が、県内の中学校の校長先生方が一堂に会し、このように盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。また、校長先生方におかれましては、心の教育等の充実、学力向上への取組、教職員の資質向上など、宮城の教育振興のために、先頭に立ってご尽力いただいておりますことに、改めて深く感謝を申し上げます。とりわけ、長年にわたり本県学校教育にご尽力いただき、この3月でご退職となられた校長先生方には、深甚なる感謝を申し上げますとともに、これからのご健勝をお祈り申し上げます。

さて、中教審の答申、小・中学校の学習指導要領が告示され、また、本県においても今後10年間の方向性を示す「第2期宮城県教育振興基本計画」を策定いたしました。中学校長会の皆様には、宮城の教育振興を進めていくために、このような国や県の教育改革の流れを見据えながら日々の学校運営に当たっていただくようよろしくお願い申し上げます。東日本大震災から6年が経過し、皆様のご尽力により本県教育の復興も着実に進んでおりますが、これからが学校教育にとって非常に大切な時期であると考えております。いじめ・不登校の問題や、子供たちの心のケア、防災教育の充実、少子化による学校の統廃合の問題など、課題は山積しているところであります。本日は私から直接中学校の校長先生方にお話をできる貴重な場でもありますので、少しお時間をいただいて、4点に絞ってお話をさせていただきます。

1点目は、「児童生徒の心のケア・いじめ・不

登校等」に係る指導の充実ということでもあります。心のケアやいじめ・不登校は本県の喫緊の課題であります。県教育委員会では、昨年度から、学校を外から支える仕組みとして全庁横断的な組織である「心のケア・いじめ・不登校等対策支援チーム」を立ち上げ、相談窓口の拡充を図るとともに、より家庭や学校への直接的な支援ができる「児童生徒の心のサポート班」を東部教育事務所内に設置し、課題解決に向けて取り組んでまいりました。また、市町村が実施する「みやぎ子どもの心のケアハウス」の体制整備を支援し、不登校や休みがちな児童生徒や家庭への直接的な支援も含め、心のケアや学習支援、適応支援等ができるような仕組みづくりを行ってきたところであります。実施している市町からは、学校復帰につながったという報告も受けているところであります。今年度は、このケアハウス事業を13の市町に拡充しております。各中学校におきましては、このような体制を有効に活用し、連携した取組を行っていただきながら、困っている子供たちや保護者に寄り添い、支えていただきたいと思います。一人でも多くの子供たちが生き生きと学校に通えるようになることを心から願っているところであります。校長先生方もご存知の通り、県内において、中学生が命を失うという事案が続いております。県教育委員会といたしましては、このことを極めて重く受け止めており、大きな危機感を持っております。大切な子供たちを預かる校長先生方におかれましては、何よりも子供たちの命を最優先に考えながら、これまで以上に一人一人の子供の置かれている状況を把握し、継続的にきめ細かな支援をよろしく願いいたします。そのためには、日頃から子供が示す変化や危険信号などを見逃さないように、教職員がアンテナを高くして、生徒の人間関係などについて情報収集に努めるようよろしくお願いをいたします。併せて、指導主事訪問の際には、いじめ根絶に向けた話し合いを行っていただいておりますが、それにより、いじめに対する認識の共有が進み、いじめに対する取組がより一層実効性のあるものになるようよろしくご配慮ご指

導をよろしく願います。

2点目は、「教員の指導力の向上と体罰の根絶」についてであります。今年度は指導主事訪問の形態を校内研究を中心とした「B訪問」にすることといたしました。教員が協働して授業をつくり、代表者の授業を全員で協議することで、一人一人の授業力の向上を目指したいということであります。一人ひとりの教員が学校生活の中心は授業であるという原点に立ち戻り、学校が組織として「子供の声を聴き・ほめ・認める授業づくり」と、「互いに認め合う学級づくり」により一層取り組んでいくことが必要であると考えております。その力量を高めていくためには、校内での日常的な学び合いが重要であります。県教育委員会といたしましても、学力向上に向けた「5つの提言」を全ての学校の、全ての教室で実践されるよう、様々な機会を捉え、推進しているところであります。教員の指導力向上とともに、子供たちの意欲の向上や、主体的な学習につながるものと考えておりますので、これも校長先生からご指導・ご助言をよろしく願います。また、今年度になってからも教員による体罰の事案が発生しており、大変残念に思っております。今回の事案では、小学校であります。体罰を行った事実の調査中に再度体罰を行ったというものでありまして、体罰そのものに対する意識が極めて低いと言わざるを得ないものであります。こういった教員による体罰は、生徒同士のいじめにもつながる可能性があると考えております。子供たちに、時には暴力を使ってもいいのだと、教師自らの行動で教えるなどということが二度とないように、教員の意識啓発と指導方法の工夫、改善をよろしく願います。

3点目は、「気になる子供に関する小学校や高校との情報共有」ということであります。小学校時代のいじめのトラブルが原因となって、高校で不登校になったという事例がありました。中学校ではこのことを知っておりませんでした。いじめ問題に限らず、小学校時代のことが尾を引いて後で大きなトラブルになるということが起きていま

す。すべての子供が中学校だけでなく高校でも円滑に、そして充実して過ごすために必要な配慮として、小学校時代の情報は重要な意味を持つということ踏まえ、いじめの問題はもちろんのこと、生活環境や子供同士の人間関係などで参考になることは、できるだけ丁寧に小学校から引き継ぎ、高校へと引き継いでいく、そういった体制を確立していきたいと考えておりますので、よろしく願います。

4点目は、「部活動の在り方について」ということであります。中学校における部活動は、スポーツや文化等に親しむとともに、学習意欲の向上や責任感、連帯感を育むなど、生徒が豊かな学校生活を送る上で大きな意義を持っています。そのような中、生徒の多様な体験を充実させ、健全な成長を促す観点からも、休養日の設定が必要であると考えます。また、先生方においても、業務の適正化を促進し、生徒と向き合える時間の確保や、ワーク・ライフ・バランスに配慮することが必要であることから、県教育委員会では今年度の3月に暫定版になりますが、「部活動での指導ガイドライン」を策定いたしました。各中学校におかれましては、このガイドラインに沿った取組を進めるようよろしく願います。

以上4点、お話をさせていただきました。この他にも、学校現場では様々な課題があります。宮城の教育の復興に向けて、チームで課題を解決していく「知恵」と、変化を恐れず一歩前に踏み出す「勇気」、そしてコミュニケーションに必要な「笑顔」を大切にして、今年度も共に歩んでいきたいと考えております。

結びになりますが、中学校の3年間は多感な子供たちのその後の人生に大きな影響を与えるものであり、その中学校の指導でトップとして仕事をしていただいている校長先生方の職務は大変な重責であります。どうか、健康に留意され、将来の宮城を担う子供たちの健やかな成長のため、これからもご尽力されますことをご期待申し上げますとともに、宮城県中学校長会の尚一層のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

宣 言

今日、わが国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

我々は、人間尊重の精神に徹し、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、「社会を生き抜く力」の育成と特色ある学校づくりに努め、県民の信託に応える決意である。

ここに、平成29年度第68回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む教育に努める。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に努める。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会から信頼される、開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。

//// //// 新 任 抱 負 //// //// 一人一人の笑顔があふれる 学校を目指して

白石市立白川中学校長

杉 山 孝 一

「みどりも深き 若竹の つよくのびゆく いきおいに・・・」本校校歌の出だしです。まさに心身ともに成長する中学生を表現したものです。そうした成長著しい子どもたちが生活する中学校の現場で仕事をさせていただくことに、やりがいと責任を感じる日々です。

白川中学校に赴任して2ヶ月余りですが、素直で明るい生徒、様々な活動に協力的な保護者、学校に関心を寄せる地域住民、これまでの歴代の校長先生方が築き上げられた賜物と感謝しているところです。

特に本校の特色ある活動として、「森林体験・巣箱づくり」「2学年立志登山」「孫の手製作」は長年にわたって保護者や地域との連携のもと、継続・発展してきた活動であります。その中の「孫の手製作」は、製作した孫の手を毎年地域の高齢者等へ贈呈してきており、こうした功績が認められ、本年度一般社団法人日本善行会より表彰を受けました。

そうした歴史と伝統のある白川中学校ですが、生徒数の減少等（本年度全校生徒数37名）により、2年後に白石市立東中学校との統合が決定しております。今後は統合に向けた取組が大きな業務とはなりますが、統合後も白川中学校のよさが活かされるよう職員とともに努力していく所存です。

「一人一人の笑顔があふれる白川中学校」これが本年度の経営理念です。生徒が家を笑顔で「行ってきます」と出て、笑顔で「ただいま」と言えるような学校生活を送ることができるよう職員とともに取り組んでまいります。

最後に、本校のもう一つの特色ある活動として「朝マラソン」があります。朝7時30分から、全校生徒が職員とともに校庭をランニングするものです。今日も早朝から笑顔で「おはよう」の声を交わし、生徒と一緒に汗をかくとき、校長として今日も頑張ろうと思うときです。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

「凡事徹底」を心のよりどころに

村田町立村田第一中学校長

橋 本 牧

4月3日、花芽膨らむ校木ソメイヨシノを臨む坂道を上って学校に到着した私を出迎えてくれたのは、生徒たちの元気な応援エールでした。先生方と生徒たちの温かな思いに包まれて、私は校長としてのスタートを切りました。

振り返れば、これまで、多くの先輩方の導きをいただきながら歩んできた、いや、歩んできたことができたと感じています。時には自身の甘さに気付かずに行った中途半端な指導を厳しく指摘くださり、またある時にはとことん悩みに寄り添いつつ、課題を乗り越えるきっかけをつかむ道を照らしてくださいました。全校生徒195名、廊下ですれ違う際にも元気よく挨拶を交わしてくれる村田第一中学校の生徒たち、その一人一人の自己実現をサポートすべく学校経営を託されているのだという言い知れぬ重責を感じた時、そんな先輩方の言葉や姿（行動）が思い起こされました。

その中で特に心に残り、自分自身の中で常に大切にしてきた「凡事徹底」という言葉を、校長としての学校経営スローガンとして掲げさせていただくこととしました。社会における凡事、すなわち、「時を守り、場を清め、礼を正す」を徹底し、ささいなことでも愚直に実行すれば必ず道は開けるという思いを先生方や生徒たちと共有しながら、様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。そして、「気高く やさしく たくましく」という学校目標の下、生徒たちが生き生きと活動に取り組み、ますます輝くよう、学校経営を進めていきたいと思えます。

さらに、今年度は、村田町立村田小学校、宮城県村田高等学校と共に志教育支援事業推進地区の指定を受けています。学校間の連携を深めていくことはもちろんのこと、地域との連携も図りながら「夢を育み、志に高める」教育を力強く進めていけるよう、やはり「凡事徹底」を心のよりどころに、全職員一致協力して取り組んでいきたいと思えます。

思いを込めて

塩竈市立浦戸小中学校長

菅 原 利 裕

4月、朝から暴風波浪警報が発令され、学校がある野々島と塩竈棧橋間の船の往復が心配された日。昼過ぎに、船を運航する塩竈汽船から「校長先生、このままだと16時の船が運航しない可能性があります。14時の船で下校を。」の電話。「先生方、児童生徒を14時の船で帰します。急いで下校の準備、保護者へ迎いのメールを。」と指示。野々島棧橋へ中学生から小学生の縦割り班で、中学生が小学生の手を繋いで移動しました。中学生は小学生に「大丈夫、心配しないで。」と声がけをしています。

本校は、学区がない特任の小中一貫校で、在籍児童生徒の42名中40名が島外から船で通学しています。島のため、自然災害などに対応する危機管理の判断が求められます。

また、「島から学校を無くしたくない。学校は島の宝だ」という島の人々の熱い思いが伝わってくる学校です。地域や保護者と一心同体の運動会、創作演劇活動（ACT）、アサリ採取、牡蠣むき体験、浦戸合宿など地域・島の人々に支えられている様々な体験活動。

児童生徒は、同じ校舎で兄弟姉妹のように協力しながら教育活動に一生懸命取り組んでいます。教職員も児童生徒に寄り添いながら、温かい思いで指導に当たっています。その姿を見る度、私は心に新たな宝物を与えてもらっています。

船を下りて、迎えに来ている保護者が待つ駐車場まで全校生徒が列を作って歩いて行く途中で、マリゲート内で働く人たちからの「お疲れ様」のあいさつ。引き渡す時に保護者も教師も笑顔で話をする姿。何とも言えない光景です。

新任校長として浦戸小中学校に勤務できることに喜びや感激を感じる毎日です。さらに、私はここで退職を迎えます。校長として最初で最後の学校が浦戸小中学校であることを誇りに思えるように、学校経営に尽力する覚悟を児童生徒からもらっています。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

玉浦の新しい街づくりとともに

岩沼市立玉浦中学校長

古 山 明 宏

5月末、「千年希望の丘植樹祭」に参加しました。岩沼市千年希望の丘は、沿岸部約10kmに及ぶ森の防潮堤で、震災によるガレキ（大切な思い出・片影）を埋め込み、丘を築造し、併せて植樹することで津波を減衰・分散させるとともに、避難場所や生物多様性の拠点とするものです。

玉浦中学校の学区は、岩沼市の沿岸部に位置し、2011年3月11日、M9.0の地震と10mを超す津波により甚大なる被害を受けました。家屋にも大きな被害が出て生徒2人が犠牲となっていました。

4月中旬、玉浦中学校では、東日本大震災を考える集会「ともに」が開かれ、震災の記憶を風化させないように、震災を思い起こし、震災犠牲者らに黙とうを捧げました。そして▼一緒に過ごした亡き友を忘れない▼温かい支援への感謝を忘れない▼どこかで災害があったら積極的に支援するの三つの約束を全校で確認しました。（約束のシンボルで、玉浦の海岸の砂を溶かして作ったガラスのモニュメントが昇降口に置かれています）

街に目を移すと、被災した沿岸部6地区が集団移転してできた「玉浦西地区」があります。この地区には、街づくりの様子を知ろうと国内外から視察団が訪れるそうです。この地区では、住民同士のつながりが断たれないように、避難段階から集落ごとにまとまって当たり、コミュニティーの維持に努めたそうです。さらに、住宅の割振りでは、建築家や大学教授をアドバイザーに迎え、個人の役割や街の姿を考える講習会や話し合いを何度も重ねたとのことでした。今は生きがいづくりの段階に入っているそうです。そのほか、宅地造成され、転入世帯が増え、震災前以上に大きく世帯数が増えている地区もあります。

それぞれの新しい生き方を模索しながら新しい街づくりが進んでいます。そのような玉浦で、職員皆で夢や理想を語り合いながら、地域に開かれた地域とともに歩む学校づくりに当たっていきたいと思います。植樹した苗木の成長とともに。

かかわっていくこと

多賀城市立第二中学校長

長 沼 宗 則

平成29年の4月1日は土曜日、2日が日曜日。この土日の二日間は、人生で最も緊張した週休日となりました。これから始まる新しい生活、具体的に上手に思い描けぬまま大きいであろう重責と闘っていた小心さを思い出します。「苦しくなったら自分らしさを思い出して」「熱いビジョンを持って」「何もしないでいけばいいのだ」3月末にいただいた諸先輩方からのお言葉が頭の中を駆け巡りました。

4月3日の月曜日に赴任して、何が何やらのままに2箇月が経過。多二中の人々の様子を見るにつけて、なんとなく自分に求められていることを再認識。

歩く足を止めて「おはようございます」と挨拶し、にっこり笑ってくれた生徒。集会で床に腰を下ろし、話者に合わせて頭を下げ、次いで体の向きを変えてまなざしをそろえる生徒。入学式後に、その準備をした2、3年生に生徒会長が労いと感謝を述べ、それに拍手で応える全校生徒。この品格を失わせてはいけないと痛切に感じました。

朝の打ち合わせの後、学年の主任も副担任も教室に向いて登校してくる生徒たちに声をかける、すべての生徒のよさと課題、個性を把握し、一人一人に合った援助を展開しようと苦慮する教員チーム。先生方個々人、多二中チームの総力を発揮してもらうためにできることをしようと考えました。

学年PTAでの席、30数年振りに人生2度目の赴任となった多二中の保護者から「1年1組でお世話になりました。先生に会いに来ました。」とこの上なくうれしい一言。保護者、地域の方に素晴らしい生徒たちをどんどん見ていただき、大いに応援していただこうと思いました。

これまでご指導いただいた皆様への感謝と前向きに思考することを決して忘れず、多二中にかかわるすべての人々に自分も積極的にかかわることをしなければと強く思えるようになりました。

多二中での生活が始まりました。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

「とみやのたからもの」

富谷市立東向陽台中学校長

小野寺 幸 博

諸先輩方から厳しくも温かい助言を頂戴し、緊張の中着任した4月3日。そこから、2か月が過ぎました。着任した東向陽台中学校は、仙台市泉区と隣接する富谷市の南に位置し、『東向中（とうこうちゅう）』の愛称で地域に親しまれている開校から32年目を迎える学校です。ウキペディアには「スポーツで有名」と書かれています。私もスポーツはするのを見るのも好きなので、これからの子供たちの活躍をとて楽しみにしています。

4月にいただいた先輩からのお葉書に「赴任校の歴史を紐解くことをいつも忘れないで」と記されていました。早速、10周年、20周年、30周年の記念誌にまず目を通しました。なるほど、この歴史を知らずして校長は務まらないと強く思いました。その上で、日々先生方や子供たちの動きを見て・聞いて・話して・感じながら、今の東向陽台中学校のよさは、強みは、課題は、弱みは、と考え学校経営に取り組む毎日です。

校長室に「とみやまちには大きな山がない 大きい川にも恵まれない 海にも接していない 豊かにあるのは子どもたちだ この子らをまちの財産にしたい みんなで育てたい」と書かれた書が飾ってあります。若生照男3代富谷町長のことばです。富谷町は、昨年10月に市制施行で富谷市となりました。市町村合併を伴わず、純粋な人口増による市制移行は、稀有なことですが、それゆえ子供の数が多く活気があります。若生富谷市長も菅原教育長も「富谷市にとって子供は宝」といつもお話しになります。この「町の財産＝とみやのたからもの」である子供たち、そして骨身を削って頑張る先生方、子供たちの活動を支援くださる地域に、校長として何ができるのか・・・、今何をすべきか・・・、常に自分に厳しく問いかけながら、子供たちを育て伸ばす学校経営を目指し、実践していこうと思います。

「継承と創造」の営み

大崎市立三本木中学校長

加藤 正 弘

4月3日、文武両道の伝統校への着任日を迎え、言いようのない緊張や不安で一杯だった私の心を和らげてくれたのは、部活動に励んでいた生徒と教職員による着任セレモニーでした。玄関前に響く校歌を聞きながら、「この子供たち、先生たちのために、自分は何ができるのか」という問いと「自分の力を精一杯、尽くすのみ」という決意とが心の中で何度も行き来していたことを覚えています。

以来、この2か月の間に様々な出会いと気付きがありました。「特に係じゃないんですけど。まあ、ボランティアです。」と言いながら、きらきらした瞳で校舎前のプランターへの水遣り続ける生徒たち。日々、真摯な姿勢で職務に向き合う教職員。「三中生のため」という思い一つで多方面から学校を支えてくださる家庭や地域、諸団体の皆様。そして、私の瑣末な問いにも常に親身な助言を与えてくださる近隣の先輩校長先生方等々多くの支えとつながり（ネットワーク）があって、今の職に自分が在ることを改めて実感しています。

4月の始業式では、校訓『笑顔・挑戦・感動』を取り上げ、“長き伝統はすべて挑戦の連続であった”という先達の言葉を紹介しながら、一人一人が自分への「挑戦」を意識し、一歩踏み出す心を大切にしてほしいと話しました。とりもなおさず、このことは私自身の校長としての決意でもあります。学校経営は「継承と創造」の営みであると考えます。伝え守るべきことを着実に実践し、経営を推し進めていくとともに、学校課題に正対し、生徒・教職員が一体となって課題解決に向けた小さな挑戦を積み重ねていきたいと思えます。

5月に入り、校長室の壁面に『汝、何のために其処に在り也』という言葉が掲示しました。前任地の上司から教えていただいた言葉ですが、いつ、どんな時に、誰からこの問いを発せられても返答できる自覚的な経営～校長として在る意味と為すべきことの意識化の手だてとしています。着任の日のあの思いを大切に、決して忘れないために。

//////////////////////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

リーダーシップの旅

大崎市立鹿島台中学校長

早 坂 正 紀

リーダーシップ。この言葉を社会的活動のさまざまな場面で耳にする。経営や政治の改革を唱えるときは強いリーダーシップが求められる。

強さだけではなく、責任も問われる。また、リーダーには高潔さも必要。ハーメルンの笛吹きのように、行き先は水のなかで溺れ死ぬことであっても、心地よい笛の音色やメロディの後に人々はついていってしまう怖さもあるからだ。

リーダーシップ関連の本を開いてみると、大きな絵を描き、広く関連する人々を巻き込み、絵を実現することなどが語られている。揺るがぬフィロソフィー、明確なヴィジョン、おれについてこいという統率力、わたしが全部責任をとるといった潔さ、社員の声によく耳を傾けるなどの心得も説かれている。サントリーの佐治敬三氏の口癖「やってみなはれ」も思い出す。ちょっとひねったところでは、昔話をしないといったものもある。さらに、かつての武将や豪商、偉人の評伝から指導者としての心構えを学ぼうかとも思ったこともある。

登山のパーティで最後尾を務める人を「しんがり」というらしい。経験と判断力と体力の最も秀でた人がその任に就くという。一番手が「しんがり」を務める。二番手は先頭に立つ。そしてもっとも経験と体力に劣る者が先頭の真後ろにつき、先頭はその人の息づかいや気配を背中であかがいながら歩行のペースを決める。要は「しんがり」だけが隊列の全体を見ることができる。パーティの全員の後ろ姿を見ることができる。そして隊員がよろけたり脚を踏み外したりしたとき、間髪おらずに救助にあたる。

この登山パーティの「しんがり」の在り方こそが、学校経営という登山において大切な役割だと思いは始めている。この在り方を目指していきたい。

謙虚に

加美町立小野田中学校長

橋 元 伸 二

私の教員生活の大半は中学校です。初めて赴任した中学校は、いわゆる“元気”のいい生徒が多く、夢中というよりは必死に生徒と向き合って家に帰るとバタン。朝起きて運転しながら「今日は何もないといいな」などと考え事をしているともう学校。そんな余裕のない毎日でした。思い描いていた学園生活とはかけ離れた現実の厳しさを痛感させられました。そんな私も年を経るごとにくらか教師というものが分かってきたような気になることがありました。そんな慢心が芽生えてくると、きまってガツーンとしっぺ返しを食らったもので、その度に教え育てるといふことの難しさを思い知らされたものです。生徒たちに鍛えてもらったな、教えられたな、というのが実感です。

赴任した小野田中学校は、私が奉職した昭和62年の創立で、勝手に縁を感じています。赴任直後には、春休み中にもかかわらず、多くの生徒がエールで歓迎してくれました。2か月経ちましたが、純朴で素直な生徒たちの姿は、抱いていた不安を着実に和らげてくれましたし、自然豊かで雄大な船形連峰をバックに、葉菜山に向かって突き進む通勤の景色は、一日の活力源となっています。

とはいうものの、これまでそれほど意識せずに自然体で話せていたのが、校長になった途端、柄にもなく緊張している自分がいたり、何があるわけでもないのに、日々漠然とした不安が頭の片隅から離れなかつたりします。これも校長という重責を担う者のプレッシャーなのかと思うのですが、まだこれを楽しむ余裕はありません。

そんな中、何よりも力強くありがたいのが、近隣の郡内の校長先生方です。小中を問わず皆さんとても気を配ってくださり、頻りに声をかけてくださいます。本当に助けていただいています。

こうした諸先輩方を見習い、謙虚に、おごらず、そして、前段に記した教訓を忘れることなく職責を果たして参りたいと思います。今後ともご指導・ご助言の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////////////////////

生徒のために、地域のために

栗原市立栗原西中学校長

三 浦 伸 敏

4月3日自治会館での辞令交付を終え、学校に向かいました。右手には霊峰栗駒山が白く輝いていました。学校では、出迎えの生徒から歓迎の言葉と迫力あるエールを受けました。自分を見つめる多くの視線から、校長としての責任の重さを感じ身が引き締まりました。学校経営に全力を尽くしていくと心に誓いました。

毎朝の通勤途中で見る栗駒山の残雪は、1日ではその変化がつかめないものの、2ヶ月過ぎた今は大きく変化しています。日々の積み重ねが大切だと認識させられました。

栗駒西中学校は一迫中学校と花山中学校の統合で誕生した開校6年目の学校です。学区も広く通学には5系統のスクールバスが運行されており、3割強の生徒が利用しています。自然に恵まれ風情豊かな温泉がある花山地区、縄文時代の遺跡があり歴史を誇る一迫地区、ともに教育については大変熱心な地域です。地域にとって子どもは素晴らしい宝であり、学校はその宝をお預かりし、磨き上げる重責を担っています。地域の皆様の学校に対する思い、願いを受け止め、生徒たちの夢が実現し、社会の担い手として活躍できるように一丸となり取り組んでいきたいと思っています。

さて、生徒たちは地域にどんな協力ができるのだろうか。本校の実践として「地域サポート事業」があります。この事業は生徒の地域の行事等へ参加を通して、活性化を担う一員としての自覚をもたせ、地域とともに生きることを学び、心を育てることを目的としています。生徒は地域と部活動を単位として行事に参加します。私も生徒とともに3つの行事に参加し、地域との繋がりの大切さを強く感じることができました。

毎朝校長室に入ると73人の歴代の校長先生が温かく私をじっと見守ってくれています。その思いに応えるべく、生徒のために、地域のために何ができるのかを常に自分に問いながら「チーム西中」の更なる進化に努力していきたいと思っています。

校長になって

気仙沼市立松岩中学校長

三 浦 祐 子

校長として着任して以来、迷惑や心配をかけどおしのような気がします。先輩の校長先生方は、温かな眼差しで経験に基づいたアドバイスをたくさんくださいます。きっと、手のかかる後輩だと嘆いていることと思います。家に帰り夕食を食べると疲れ果ててすぐ就寝、あっという間に朝が来ます。そんな毎日ですが、充実した日々を送っていることを実感しています。

様々なことが次から次へと発生し、その都度、責任者として「選択と決断」に迫られています。校長として何をどうすべきか、どんな言葉を生徒や教職員に掛けたら良いのか等、考えれば考えるほど迷いますが、多くの方々の助けをいただきながら、少しでも自信を持つことができるように努力していきたいと思っています。

また、悩んでいる暇があまりないことも感じます。生徒や教職員は、いつもまっすぐに校長を見つめ、真剣に耳を傾けています。どのような場面でも、むしろ苦しい時こそ、管理職は、笑顔で明るく正対しなければならないのだと改めて感じる毎日です。ある校長先生が「心を込めて真の言葉で語ってあげたいね。」と話してくださいました。借り物ではない真の言葉で前向きになるように心を込めて接していけたらと思っています。

目の前には、迷いながらも明るくまっすぐな心で前に進もうとする大勢の生徒たちがいます。また、忙しさで目が回りそうになっても生徒のために心を尽くす教職員がいます。私もその一員として、喜びや苦しみをともに分かち合ってきました。そんな学校を、保護者と地域が、そして諸先輩方や多くの方々が見守り支えてくださっていることに心から感謝いたします。これからも元気な学校であり続けられるよう、校長として微力ながら全力で取り組んでいきたいと思っています。

//////////////////// 新 任 抱 負 //////////////////////

「蓮」の花

東松島市立鳴瀬未来中学校

伊 東 毅 浩

所長訪問の朝、特別支援教育支援員のSさんがきれいな花を持って校長室を訪れました。それは、校庭の「友情の池」に咲いていた「蓮」の花です。前日、「蓮の花がとてもきれいに咲いたので、校長室に飾ってもよろしいですか」と聞かれ、「う～ん、蓮の花を飾ってあるのは見たことがないですが、お願いします」と答えました。生憎、学校にはちょうど良い花器は無かったものの、使われることの無くなった大きな灰皿をSさんが見つけてきたので、「お釈迦様も許して下さるでしょう」などと言いながら、応接テーブルの中央に置きました。所長訪問で「蓮」の花の話題が出ることを想定し、花言葉を調べたら「清らかな心」でした。「もしも聞かれたら、『今日は清らかな心で所長訪問に臨みました』と答えよう」などと独り言をつぶやきました。

Sさんに限らず、いわゆる一人職の方が本校にも何人かいます。それぞれがその道のスペシャリストですが、時には一人職ゆえの大変さもあると思います。元中学校長の父から、「用務員さんや事務の先生、養護の先生など、一人の職員を大切にするんだぞ」と言われたことを思い出しました。新しい勤務先で、どこに何があるのかも分からず、ましてや新任校長として、どのように職員や生徒に接していけばよいのか悩む日々が続いており、一人校長室で思いを巡らせている時、「そうか、自分も一人職なんだなあ」と思うことがあります。

所長訪問が終わり、結局「蓮の花」の話題が出ることは無かったので、「ごめんなさい。せっかく飾ってもらったのに、話題が出ませんでした」と謝ると、「いいですよ。明日は校舎前の花壇の薔薇がきれいに咲いたので飾りますね」と言われました。一人一人の職員の、そういった清らかな心に支えられて、今の自分があるということを忘れずに、これからも頑張ろうという気持ちになりました。

ちなみに、「蓮の花」の話題が出なくて良かったと思っています。もう一つの花言葉は「雄弁」であり、墓穴を掘る可能性があったからです。

編集後記

- 宮城県中学校長会総会において、桂島晃宮城県校長会会長は、開会のあいさつの中で、「主体的・対話的で深い学びを目指すアクティブラーニングの視点からの授業改革」「地域の方々の思いを学校運営に反映させ、社会に開かれた教育活動」「明確な改革ビジョンと教育改善に向けたカリキュラムマネジメント」の3点について重点的に取り組み、宮城県校長会のそして宮城の教育充実を目指すことを話されました。また、高橋 仁宮城県教育委員会教育長は祝辞の中で、「児童生徒の心のケア・いじめ・不登校等にかかる指導の充実」「教員の指導力の向上と体罰の根絶」「気になる子どもに関する小学校や高校との情報共有」「部活動のあり方について」の5点について話されました。我々校長は、桂島会長や高橋教育長の話されたことを着実に推進し、宮城県教育の一層の充実・発展に努めていかなければならないことを共に確認し合う機会となりました。
- 12名の校長先生から新任校長としての抱負や感想、随想などについて原稿を寄せていただきました。校長としての重責に戸惑いながらも、理想とする生徒像や教師像、学校像の実現に向けての熱い思いが伝わってきました。
- 次号は、「第68回全日本中学校長会研究協議会 東京大会」と「第35回宮城県中学校長会研究協議会 大崎大会」の報告を中心に編集して参ります。
原稿執筆等、ご協力のほどよろしくお願い致します。

平成29年度 宮城県中学校長会事務局

〒985-0851

多賀城市南宮字八幡170

多賀城市立多賀城第二中学校内

TEL : 022-309-1351

FAX : 022-309-1352

E-mail : miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

事務局員：佐々木 美代子
佐々木 奈美子